



## 2024年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年11月2日

上場会社名 株式会社ダイショー 上場取引所 東  
 コード番号 2816 URL <https://www.daisho.co.jp>  
 代表者（役職名） 代表取締役会長（氏名） 松本 洋助  
 問合せ先責任者（役職名） 取締役管理本部長（氏名） 矢野 宏一 (TEL) 092-611-9340  
 四半期報告書提出予定日 2023年11月10日 配当支払開始予定日 2023年12月1日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

## 1. 2024年3月期第2四半期の業績（2023年4月1日～2023年9月30日）

（1）経営成績（累計）（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	11,650	6.3	294	4.8	299	4.4	202	12.4
2023年3月期第2四半期	10,963	1.4	281	△50.3	287	△49.6	180	△52.6
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2024年3月期第2四半期	20.95		—					
2023年3月期第2四半期	18.65		—					

## （2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第2四半期	16,847	9,231	54.8
2023年3月期	15,352	9,090	59.2

（参考）自己資本 2024年3月期第2四半期 9,231百万円 2023年3月期 9,090百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	9.00	—	9.00	18.00
2024年3月期	—	9.00	—	—	—
2024年3月期（予想）	—	—	—	9.00	18.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2024年3月期の業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	24,300	4.0	740	52.7	740	48.7	460	47.9	47.66

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

会計方針の変更に関する注記

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2024年3月期2Q	9,868,800株	2023年3月期	9,868,800株
------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2024年3月期2Q	216,088株	2023年3月期	216,088株
------------	----------	----------	----------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2024年3月期2Q	9,652,712株	2023年3月期2Q	9,652,712株
------------	------------	------------	------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、政府主導による賃上げ政策により所得環境が改善するなど、景気は緩やかに回復いたしました。一方で、長期化する世界的な金融引締めは円安を継続させ、それにとまなう物価高は暮らしに影響を与えており、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

食品業界におきましては、上昇し続ける原材料価格や労働コストなどを吸収しながら利益を確保しなければならず、企業運営の正常化には厳しい状況となりました。

このような状況のもと、当社は、2025年3月期までの中期経営計画に沿い、次世代を切り開くダイショーらしさを確立し、企業価値の向上をめざして、成長を持続させてまいります。特に今期は、適正な価格を意識し付加価値のある製品開発や価格改定を軸とした収益力の改善に取り組んでおります。

製品群別の概況は、以下のとおりであります。

液体調味料群の小売用製品においては、主力製品の販売に経営資源を集中させ一層の拡販に努めるなか、「おうち焼肉」の根強いニーズを背景に『秘伝 焼肉のたれ』などの焼肉のたれ類が好調に推移いたしました。また、「名店監修」シリーズのまぜそばの素の積極的な販促キャンペーンの実施とあらたに投入した『名店監修 すみれ味噌仕立て油そばの素』が好調に推移し、売上を牽引いたしました。鍋スープでは、新製品として投入した「名店監修」シリーズの『名店監修鍋スープ 天下一品京都鶏白湯味』や名店の味の再現度をさらに高めてリニューアル発売された『名店監修鍋スープ 一風堂博多とんこつ赤丸新味』が売上をのびました。業務用製品では、多彩なフレーバーで展開しているオイルソースが精肉向けの製品を中心に引き続き好調に推移いたしました。この結果、売上高は83億74百万円（前年同期比107.9%）となりました。

粉体調味料群においては、ロングセラー製品『味・塩こしょう』が発売55周年を迎え、有名アニメーションとのコラボレーション製品を期間限定で発売するとともに、販促キャンペーンを展開するなど、主力製品を中心に販売促進に努めました。この結果、売上高は20億97百万円（前年同期比106.7%）となりました。

その他調味料群においては、業務用製品は堅調に推移したものの、コロナ禍における需要の反動減で「スープはるさめ」などの小売用製品の販売環境は厳しく、売上高は11億78百万円（前年同期比95.2%）となりました。

以上の結果、及び2023年6月に実施いたしました製品価格改定の効果により、当第2四半期累計期間における売上高は、116億50百万円（前年同期比106.3%）となりました。利益につきましては、営業利益は2億94百万円（前年同期比104.8%）、経常利益は2億99百万円（前年同期比104.4%）、四半期純利益は2億2百万円（前年同期比112.4%）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### ①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べ14億94百万円増加し、168億47百万円となりました。流動資産が総資産の51.1%を占め、固定資産は総資産の48.9%を占めております。資産の変動は、主に「受取手形及び売掛金」が17億14百万円、「商品及び製品」が7億22百万円増加し、「現金及び預金」が8億43百万円減少したことによるものです。

負債は、前事業年度末に比べ13億53百万円増加し、76億15百万円となりました。流動負債が負債合計の75.1%を占め、固定負債は負債合計の24.9%を占めております。負債の変動は、主に「短期借入金」が6億円、「買掛金」が5億38百万円、「未払金」が1億70百万円増加したことによるものです。

純資産は、前事業年度末に比べ1億40百万円増加し、92億31百万円となりました。純資産の変動は、主に剰余金の配当86百万円の支出と四半期純利益2億2百万円の計上により「利益剰余金」が1億15百万円増加したことによるものです。自己資本比率は54.8%となり、前事業年度末に比べ4.4ポイント下降しました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、13億53百万円となり、前事業年度末に比べ8億43百万円減少いたしました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税引前四半期純利益2億96百万円、仕入債務の増加額5億38百万円、減価償却費3億39百万円、未払金の増加額2億56百万円等による資金の増加と、売上債権の増加額17億14百万円、棚卸資産の増加額8億29百万円等による資金の減少により、前年同期比で4億67百万円収入減の10億62百万円の純支出となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出1億72百万円等による資金の減少により、前年同期比で2億69百万円支出減の1億73百万円の純支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入れによる純収入6億円とリース債務の返済1億22百万円、配当金の支払86百万円の支出により、前年同期比で6億34百万円収入増の3億91百万円の純収入となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

「2023年3月期 決算短信」(2023年5月12日に公表)において発表いたしました通期の業績予想からの変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

①原価差異の繰延処理

操業度等の季節的な変動に起因して発生した原価差異につきましては、原価計算期間末までにほぼ解消が見込まれるため、当該原価差異を流動資産または流動負債として繰り延べる方法を採用しております。

②税金費用の計算

当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

## 3. 四半期財務諸表

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,196	1,353
受取手形及び売掛金	3,071	4,785
商品及び製品	1,134	1,856
原材料	421	529
その他	100	99
貸倒引当金	△8	△11
流動資産合計	6,916	8,612
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,418	2,381
土地	2,801	2,801
リース資産(純額)	808	747
その他(純額)	1,039	940
有形固定資産合計	7,068	6,870
無形固定資産	85	69
投資その他の資産		
投資その他の資産	1,286	1,299
貸倒引当金	△4	△5
投資その他の資産合計	1,282	1,294
固定資産合計	8,436	8,234
資産合計	15,352	16,847

(単位：百万円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2023年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	2,051	2,589
短期借入金	—	600
未払金	1,275	1,445
未払法人税等	71	143
賞与引当金	445	485
その他	459	457
流動負債合計	4,302	5,721
固定負債		
退職給付引当金	521	528
長期未払金	704	703
その他	733	662
固定負債合計	1,959	1,894
負債合計	6,262	7,615
純資産の部		
株主資本		
資本金	870	870
資本剰余金	379	379
利益剰余金	7,879	7,994
自己株式	△114	△114
株主資本合計	9,015	9,130
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	75	100
評価・換算差額等合計	75	100
純資産合計	9,090	9,231
負債純資産合計	15,352	16,847

## (2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	10,963	11,650
売上原価	6,568	7,116
売上総利益	4,394	4,534
販売費及び一般管理費	4,113	4,239
営業利益	281	294
営業外収益		
受取利息及び受取配当金	2	2
不動産賃貸料	3	3
その他	7	7
営業外収益合計	13	13
営業外費用		
支払利息	7	8
その他	—	0
営業外費用合計	7	8
経常利益	287	299
特別損失		
固定資産除売却損	1	3
特別損失合計	1	3
税引前四半期純利益	285	296
法人税、住民税及び事業税	105	94
法人税等合計	105	94
四半期純利益	180	202

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	285	296
減価償却費	346	339
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△701	—
賞与引当金の増減額 (△は減少)	40	40
売上債権の増減額 (△は増加)	△936	△1,714
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△367	△829
仕入債務の増減額 (△は減少)	370	538
未払金の増減額 (△は減少)	△181	256
長期未払金の増減額 (△は減少)	704	△0
その他	4	43
小計	△435	△1,030
利息及び配当金の受取額	2	2
利息の支払額	△7	△8
法人税等の支払額	△155	△25
営業活動によるキャッシュ・フロー	△595	△1,062
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△438	△172
その他	△4	△1
投資活動によるキャッシュ・フロー	△443	△173
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	—	600
長期借入金の返済による支出	△42	—
リース債務の返済による支出	△114	△122
配当金の支払額	△86	△86
財務活動によるキャッシュ・フロー	△243	391
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	1
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,280	△843
現金及び現金同等物の期首残高	2,831	2,196
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,550	1,353

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第2四半期累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

該当事項はありません。